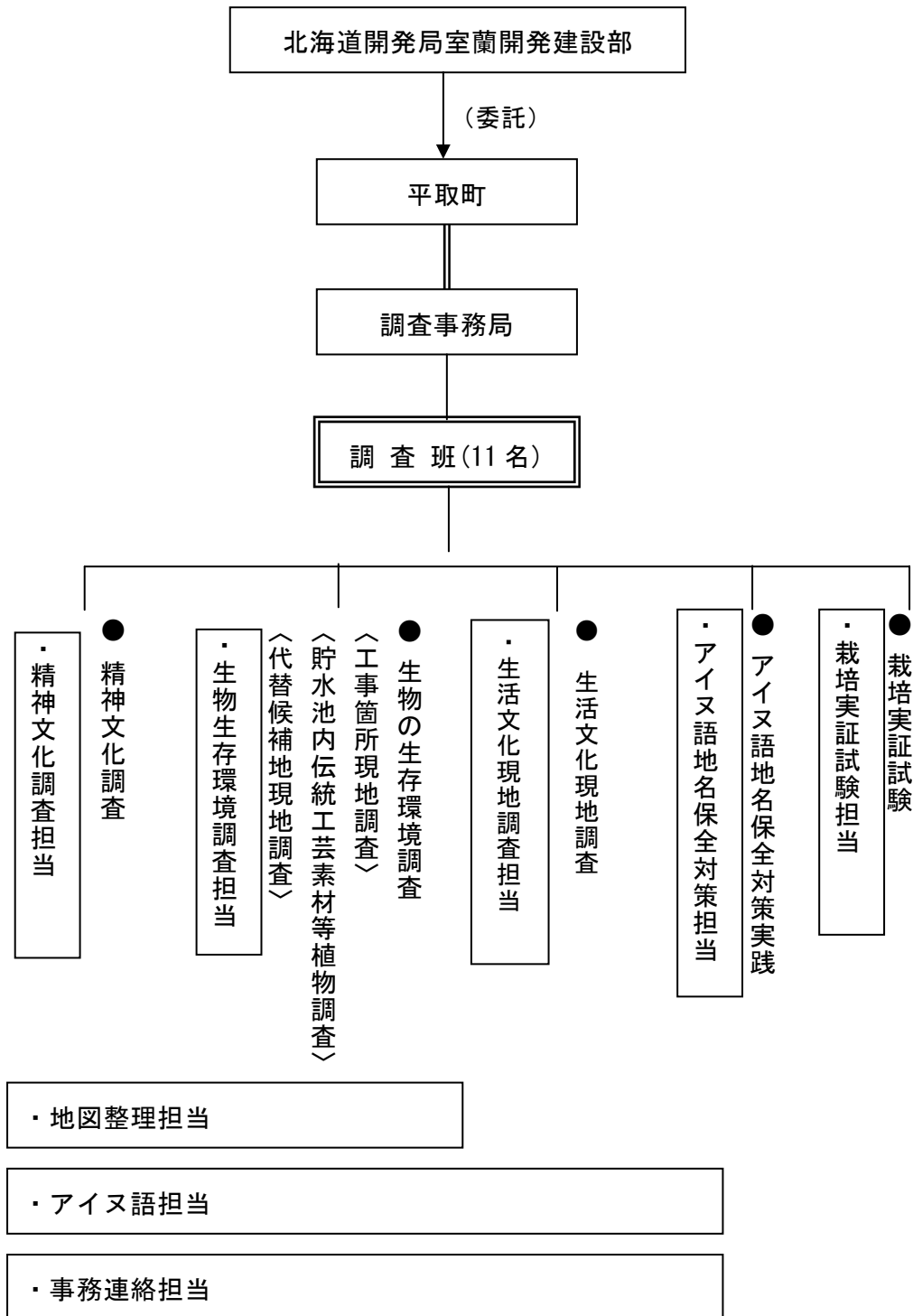


# 平取ダム地域文化調査業務の概況

## — 調査体制図 —



概要と現況 - 各業務課題別

# 1 精神文化現地調査

<業務内容>

◆平取ダム建設予定地周辺に存在するアイヌ民族の信仰観に根ざした精神文化が平取ダムの建設によって受ける影響に対する保全対策案(代替候補地等)について、現地状況を把握する。

概要と現況 - 各業務課題別

# 1 精神文化現地調査



概要と現況 - 各業務課題別

## 2 生物の生存環境調査

### (1) 工事箇所現地調査

<業務内容>

◆付替道路工事予定箇所における生物（伝統工芸素材植物等）などの保全対象をアイヌ文化環境保全対策調査総括報告書に基づき把握を行う。なお、調査時期については、春期および夏期とする。

概要と現況 - 各業務課題別

## 2 生物の生存環境調査

### (2) 貯水池内伝統工芸素材等 植物分布調査

<業務内容>

◆貯水池内における伝統工芸素材植物等を調査し、分布図を作成する。

概要と現況 — 各業務課題別

## 2 生物の生存環境調査

### (3) 代替候補地現地調査

<業務内容>

◆伝統工芸素材植物等の代替候補地を調査し、現地状況の把握を行う。

概要と現況 — 各業務課題別

## 2 生物の生存環境調査



概要と現況 — 各業務課題別

### 3 生活文化現地調査

<業務内容>

◆アイヌ文化期にかつて行われていた栽培形式を再現可能な候補地を調査し、現地状況の把握を行う。

概要と現況 — 各業務課題別

### 3 生活文化現地調査



# 4 アイヌ語地名保全対策実践

## <業務内容>

◆アイヌ語地名踏査(H18年度調査)について、保全対策案の検討に必要な基礎資料を作成する。

アイヌ語地名保全対策実践
4

番号: T-091 | 調査済 | H18年度  
 分類: 川 | 地域・川筋 | 発生: 宿主別川 | 漢字: 宿主別川  
 アイヌ語名: スクシベツ 1

MEMO
信仰
地名
栽培
アイヌ語
トップページ

① シキウシユナイ

② シキウシナイ

③ 宿主別川

ローマ字表記: skid-us-nay

出典・由来①: ●地測室部「北海道原製五万分一図」イヌナイメアリ明治29年

出典・由来②: ●平野町アイヌ語地名(萱野茂・畑田忠義)▲スクシベツ=終日陽の当たる-沢

出典・由来③: ●日高開発史(日高支庁)▲昔は奥が甚だ多かったので、各地にその通称がアイヌ地名を以て指称されている。河津川及び安流藤平川におけるこれらの地名を示すと次の様である。シキウシナイ(宿主別川)・かや・葦の沢(葦がここの) この地域は奥の群が比較より日高山脈に集中する

出典・由来④: ●「萱野茂さんCT20030203-002」▲スクシベツというのは太陽の上。宿主別川は東から西へ流れている川なので、朝から晩まで陽が当たるからスクシベツという。

出典・由来⑤: ●北海道の川の名(山田秀三)▲宿主別川をスクシベツまたはスクシベツという。東西に流れる川で、朝から晩まで日があたる。スクシベツ(日光・沢)の意味だったのではないかと萱野茂さんは話していた。

出典・由来⑥: ●戊午東西蝦夷山川地理取調目録・下(松浦武四郎)▲魚類は鱈・ウ・鱒・チライ・桃花魚等入るなり。

**目録状況**

- 川底は岩盤、本流にまじり、層状をなしている
- 本流はおだやか、多少にこりあり
- ヤナギ、ドロノキ、クルミがあるが大きくない。太いもので径5~6cm
- 扇の上は溪谷をなし、小さな滝が数ヶ所
- ハンノキ、エゾヤマザクラ、ニレ、イタヤ、イシナラが多く見られる
- ミズナラ、カナダモ
- オニカヤは下の扇状の所にあったが、上の草地にあったらう
- 対岸が崖

**現地写真**



●明治5万分の1 山川地理 H17年度踏査取り



国土院院25000分の1地形図(2004年度)





概要と現況 — 各業務課題別

## 5 栽培実証試験

<業務内容>

- ◆アイヌの文化的意義を有する植物群について、その資料的価値ならびに将来の活用に向け、栽培実証試験を行う。



概要と現況 — 各業務課題別

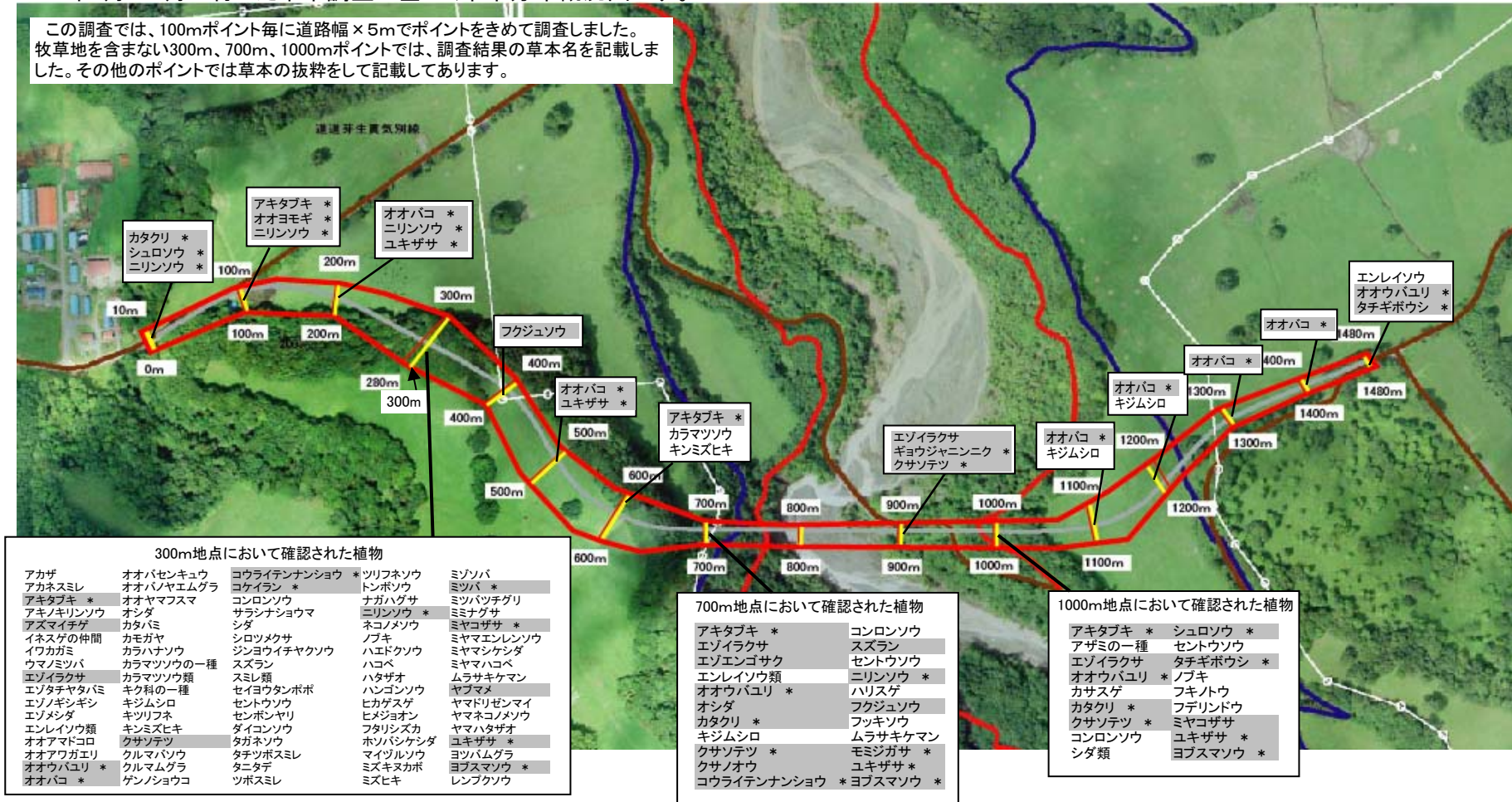
## 5 栽培実証試験



## 2 生物の生存環境調査 (1) 工事箇所現地調査 ① 草本分布概況図一速報版

H19年4月～6月に行った草本調査に基づく草本分布概況図です。

この調査では、100mポイント毎に道路幅×5mでポイントをきめて調査しました。牧草地を含まない300m、700m、1000mポイントでは、調査結果の草本名を記載しました。その他のポイントでは草本の抜粋をして記載してあります。



\* は分布図を作成(別途)している植物です。  
網掛け はアイヌ文化の観点から有用性の高い植物です。



## 2 生物の生存環境調査

### (1) 工事箇所現地調査 ②木本概況図—速報版

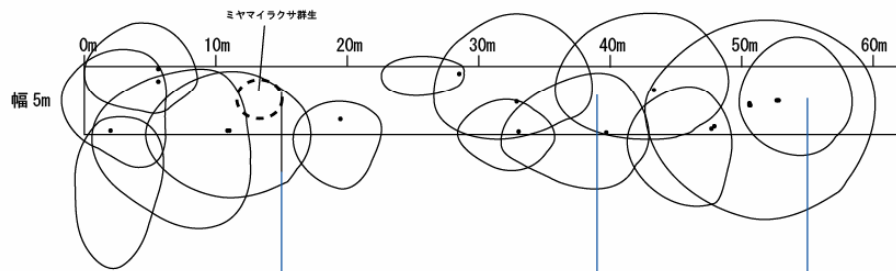
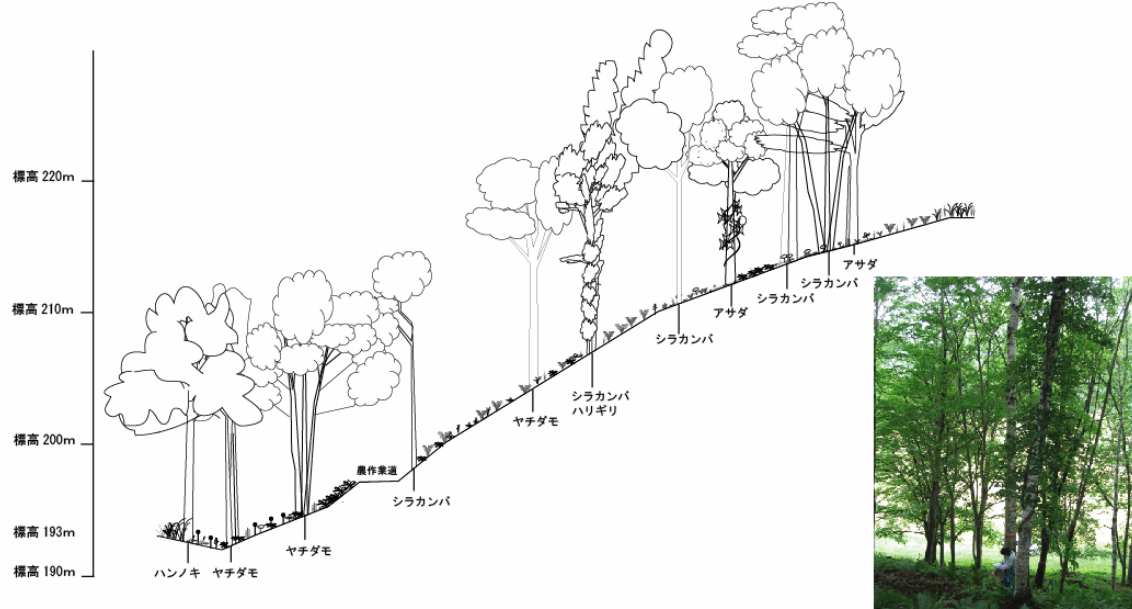
H18年度の木本調査に基づいて木本分布概況図を作成しました。



\* は分布図を作成(別途)している植物です。  
網掛け はアイヌ文化の観点から有用性の高い植物です。

# 300m ポイント 植生分布・林相断面図

2 生物の生存環境調査 (1) 工事箇所現地調査  
 草本・木本分布概況図で示した 300m地点の植生を  
 林相断面図にして示しました。



林床			林床		林床	
アカザ	カモガヤ	セントウソウ	フタリシズカ	スズラン	アキタビキ *	セントウソウ
アキノキリンソウ	カラハナソウ	センボンヤリ	ミズキヌカボ	スミレ類	イネスグの仲間	ツリフネソウ
アズマイチゲ	カラマツソウ	ダイコンソウ	ミツバ	エンレイソウ	エゾタチヤタバミ	ニリンソウ *
イワカガミ	カラマツソウの一種	タニタデ	ミミナグサ	オオハバユリ *	エゾノキシギシ	ノブキ
ウマノミツバ	キク科の一種	ツボスミレ	ミヤコザサ *	オオハバヤエムグラ	タチツボスミレ	ハンゴンソウ
エゾイラクサ	キジムシロ	ツリフネソウ	ミヤマエンレンソウ	オンダ	ツリフネソウ	オオヤマフスマ
エゾタチカタバミ	キンミズヒキ	トンボソウ	ミヤマシケシダ	カラハナソウ類	ノブキ	オンダ
エゾノキシギシ	クサソテツ	ナガハグサ	ミヤマハコベ	カラマツソウ類	フタリシズカ	カタバミ
エンレイソウ類	ゲンショウコ	ニリンソウ	ムラサキケマン	キンリフネ	ホソバシケシダ	カモガヤ
オオアマドコロ	コウライテンナンショウ	ネコノメソウ	ヤマメ	キンミズヒキ	ミズヒキ	カラマツソウ
オオアワガエリ	コケイラン *	ノブキ	ヤマドリゼンマイ	クルマバソウ	ミツバツチグサ	キジムシロ
オオハバユリ *	コンロンソウ	ハエドクソウ	ヤマネコノメソウ	クルマムグラ	ミヤコザサ *	コンロンソウ
オオハコ *	サラシナショウマ	ハコベ	ユキザサ *	コウライテンナンショウ *	ユキザサ *	シロツメクサ
オオハセンキュウ	シダ	ハタザオ	ヨツバムグラ	コケイラン *	ヨブスマソウ *	シロツメクサ
オオヤマフスマ	シロツメクサ	ハンゴンソウ		コンロンソウ	レンブクソウ	ジンヨウイチヤクソウ
オンダ	スミレ類	ヒカゲスゲ				
カタバミ	セイヨウタンポポ	ヒメジョオン				



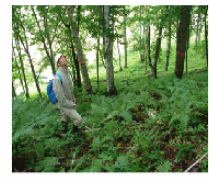
2006年 11月



2007年 5月



2007年 6月

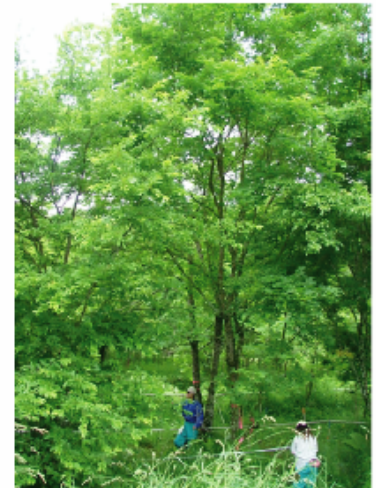
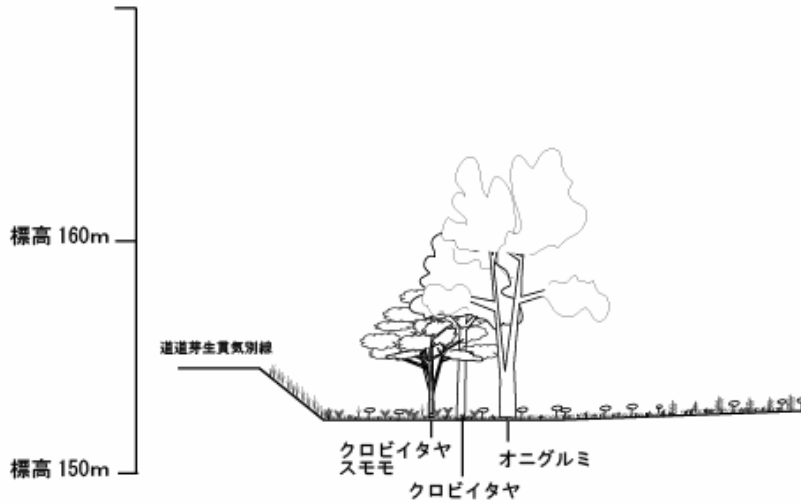


2007年 7月

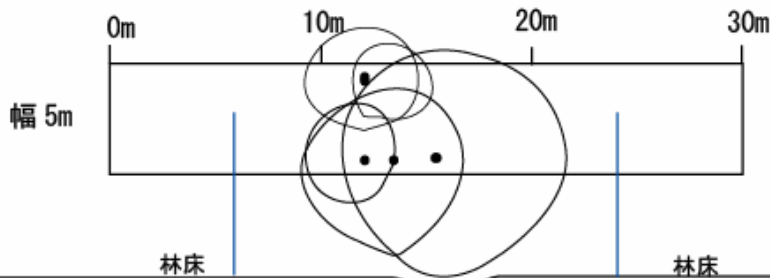


\* 印は分布図を作成 (別途) している植物です。  
 網掛けはアイヌ文化の観点から有用性の高い植物です。

900mポイント植生分布・林相断面図（番兵小屋跡地付近）



林相の状況



林床		林床	
エゾイラクサ	トリカブト	アズマイチゲ	スギナ
エゾノギンギシ	ハコベ	オオアワガエリ	セリ*
オオアワガエリ	ハンゴンソウ	オオアワダチソウ	セントウソウ
オオアワダチソウ	ヒメジョオン	オオイタドリ*	トクサ
オオイタドリ*	フキノトウ	オオウバユリ*	トリカブト
オオヨモギ	ミズヒキ	オオバコ*	ニリンソウ*
ガガイモ	ミツバ*	オシダ	ノブキ
カモガヤ	ムグラ類	オニナルコスゲ	ヒメジョオン
カラハナソウ	ヤエムグラ	カラハナソウ	ミツバ*
カラマツソウ	ヤブマメ	ギョウジャニンニク*	モミジガサ*
クサソテツ	ユキザサ*	クサソテツ*	ヤブマメ
スギナ	ヨツバムグラ	コウライテンナンショウ*	ヨツバムグラ
セイヨウタンポポ	ヨモギ	コンロンソウ	ヨブスマソウ*
トクサ		シダ類	ヨモギ



2006年11月



2007年5月



2007年7月

\*印は分布図を作成（別途）している植物です。

網掛けはアイヌ文化の観点から有用性の高い植物です。

◆居住場所(番兵小屋・マタギ小屋)および居住者別による年代区分一覧(2007-05-30現在)◆

凡例   荷負本村の男性Dbさん   荷負本村の男性Obさん   荷負本村の男性Ebさん   荷負本村の男性Beさ   不明   牧野に関する情報(\*別紙参照)

年代(昭和)	No.4	No.4-1	No.24	No.23	No.22	No.18	町営牧野	備考
1935(10)年								
1936								
1937								
1938								
1939								
1940(15)年								Dbさん50歳前後
1941								
1942								
1943								
1944								
1945(20)年								
1946								
1947								
1948								
1949								
1950(25)年								
1951								
1952								
1953								
1954								
1955(30)年								
1956								
1957								
1958								
1959								
1960(35)年								
1961								
1962								
1963								
1964								
1965(40)年								Obさんが亡くなる
1966								
1967								
1968								
1969								
1970(45)年								
1971								
1972								
1973								
1974								
1975(50)年								

●17歳の頃(1940年頃)、馬番兵をしていた荷負本村の男性は宿主別の橋の袂に居た。土台付きの小屋を役場が建ててくれた。〈CT20050818-003〉

●舅さんがシュクシの橋の袂、道路から右側の場所で馬の牧場番をしていた。何年くらい牧場番をやっていたのかは分からないが5・6年は居た。19歳(1944年)で嫁いで来た時には、すでにやっており、番兵をする時期になると本村の家から行き、冬になると帰って来ていた。小屋は炉はなく、焚き火。茅で囲いをし、仕切りはなく、一つの部屋でおじいさんとおばあさんが寝るくらいの広さで、布団もたまたまなくておくだけで、あまり広くはなかった。玄関は道路側にあった。〈CT20040715-001〉

●55年ぐらい前(1946年頃)、荷負本村の男性が、宿主別橋を渡った道路の右側に住んでいた。小屋は炭焼き小屋と違って、家の土台が付いている結構立派な家だった。荷負本村の男性が住んでいた小屋まで川を越えていつも遊びに行っていた。〈CT20040507-001〉

●本村の男性が宿主別橋を渡った右手で馬番兵をしていたのは、私が18才(1948年)の頃から30才(1960年)ぐらいまでの期間。冬も年中管理していた〈CT20040614-001〉

●15・6歳(1953・1954年)の頃、宿主別の橋の袂に荷負本村の男性の父親が牧場番兵をしていた。〈CT20040527-001〉

●荷負本村の男性が宿主別で馬番兵をしていた。番兵小屋は川の向こう(宿主別橋を渡り、道路の右側)にあり、奥さんと2人でいた。その男性は、叔父にあたるので、25・6歳(1955~1956年頃)の頃、仕事帰りに寄っていた。〈CT20050819-001〉

●宿主別橋を渡った右側の古い小屋で伯父が馬番兵をしていた時(1955年頃前後)、夏休みに泊まりに行つてやまべ釣りをしたり、いろいろ遊んだ。泊まっている間、味噌汁に素麺をはなしたものを毎日食べさせられ3日で嫌になり帰って来たことがある。友達と自転車に乗って届け物をする時や夏休みに泊まりに行くくらいで普段は伯父の小屋にはそんなに行かなかった。その時に囲炉裏の縁にお酒でお祈りをしていた。〈CT20040205-005〉

●1958(昭和33)年頃、芽生から宿主別橋を渡った右側のところに馬番兵をしていた荷負本村の人がいて家が建ててあった。姑さんと仲が良く、夫婦で必ずドサンコに乗ってしょっちゅう遊びに来ていた。〈CT20040709-001〉

●宿主別橋付近の右側に父の(一番上の)姉夫婦が、馬の番兵をしていた。住んでいた家は私が中学生(1965~1967年)の頃までであった。スズラン祭りの時に父親が、兄貴達にそこに泊まれと言っていた。〈CT20051018-001〉

●宿主別の馬番兵は何人が代わっているが、わたしが馬車追い(馬車追いは糠平鉱山だけでなく、あちこち歩いた)で通っていた頃、宿主別の橋のすぐ袂のカーブの下(芽生から渡った右側)に小屋があり、荷負本村の男性が馬番兵をしていた。番兵小屋は、小さかったが土台付きのきちとした小屋だった。〈CT20050623-001〉

●1941~1942年(昭和16・17年)頃、現在の宿主別橋を渡ってすぐ左側に平取町営の牧場があり、荷負本村の男性が番兵していた。男性は、平取町の役場から頼まれ、町有牧野の馬の番兵をしていた。〈CT20040203-002〉

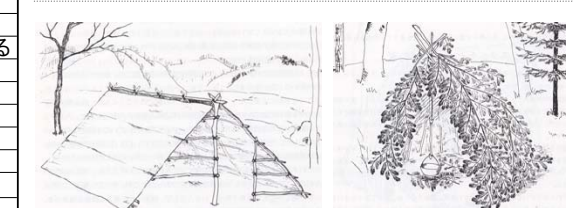
●25歳(1950年)頃、舅さんの御飯炊きに一緒に行き、泊まる時は、道路を挟んで向かいの川原の縁に小屋を建て寝泊りしていた。その時の宿主別川の川原は広く、木原の中での小屋なので、夜くまが来て小屋を倒されるのではないかと思い恐いながら寝ていた。〈CT20040715-001〉

●祖父は現在のスズラン群生地付近で牧場番をしていた1935~1943年頃、よくカムイノミしていた。ヌサ(祭壇)がスモモの木の右側(沢の上手)にあって家はスモモの木の前の(沢の下手)にあった。ホロシリの方に向かってお祈りをしていた。〈CT20040614-001〉

●祖父はわたしが物心が付く前から宿主別で牧場番をしていて、スズラン群生地近くのカーブの上り坂の途中の左側にも住んでいたことがあり、わたしが5・6歳頃(1935・36年頃)には現在のスズラン群生地の付近に移った。馬は肉牛や乳牛の牧場だった。〈CT20040614-001〉

●昭和12・13(1937・8)年頃、祖父は、芽生から宿主別橋を渡り、スズラン群生地に向かう坂道の途中の左手に小屋を建て、馬番をしていた。小屋は、現在枯れたナラの木がある少し下側の方あり、土台付きで畳を敷いた立派な小屋だった。2間の3間くらいの大きさで、8畳の部屋と、茶の間・流しで6畳くらいだった。屋根はマサ葺きで、囲いは板、炉は木で、トウナ(火棚)もあり、そこで魚などをサカンケ(煮て干す)した。あまり大きいものではないが、幌尻の方に向かってヌサがあり、祖父はそこでカムイノミしていた。窓から見えるようにイナウチバがあった。〈CT20050618-001〉

●1939・1940年(17、18歳)頃、額平川と宿主別川のぶつかっている二股(補:合流点)の少し高い、大雨でも水が浸からないところの三角小屋に、イナウチバ(家の外側にある祭壇)があり、マタギの人たちが5、6人集まり、泊まって、カムイノミ(お祈り)をしていた。〈CT20070205-(信)-001儀礼行為の現状把握調査〉



三角小屋・マタギ小屋イメージ図【平取町教育委員会二風谷遺跡調査会/萱野茂「アイヌセト私」P5・P11】より

●祖父は、マタギ小屋を3つ持っていて、その一つがスズラン群生地のちよつと行ったカーブの所で、三角小屋があったと荷負本村の女性に聞いた。15・6才(1954・1955年頃)の時、誰のマタギ小屋かは分からなかったがここを通った時に、イナウチバ(家の外側にある祭壇)があり、くまの頭から何からかざつてあったのを見た。〈20050607-001〉

●スズラン群生地に奥に向かって行き、カーブを曲がった沢の出口の平らな場所で昭和30年(1955年)頃まで人が住んでいて、小屋はずっと潰れないであった。そこに住んでいた人は、おそらくマタギの人だと思う。家1軒だけだった。〈CT20040209-004, CT20041221-001, CT20041227-001, CT20050624-001, CT20050721-001〉



地図6: 地図7: 番兵小屋イメージ図【沙流郡びらとり町/語りつく平取P101】より



地図10: マタギ小屋イメージ図【川上勇治著/サルンクル物語P267】より

(※ No.は資料-6の番号に置換、聞取対象者名を削除 07-07-22)

牧野に関する情報(\*別紙)2007-05-30現在

●昭和20(1945)年に芽生に入植した頃、馬の牧場の監視員の住宅があり、監視員の住宅は宿主別にもあった。〈CT20040209-003〉

●昭和25、6(1950・1951)年頃、芽生の小学校の所が牧野の三本通しのチャツ(補:棚のこと。棚に穴が開けられていて、その穴に棒を通してあり、それが3本だと「三本通し」と言った)があった。その頃、鉱山が奥にあり、車が来ると外し、通ると閉めていた。その場所から奥が牧野になっていた。特に囲いも無いような感じで出入り部分だけがチャツがあった。家でも昭和21、2(1946・1947)年頃に牛を放したことがある。豊糠の方へ行ったって何も境界が無かった。〈CT20050613-001〉

●芽生小学校から昔、町の牧場だった。子どもの頃、現在の芽生生活改善センターの所に立派な2階建ての馬小屋があった。〈CT20050908-001〉

●芽生の方には馬を放牧していなかったが今の牧野の方からスズラン畑の方では馬を放牧していた。昭和23年(1948年)頃、町営牧野の管理人は芽生の男性だった。〈CT20040209-001〉

●1941～1942年(昭和16・17年)頃、現在の宿主別橋を渡ってすぐ左側に平取町営の牧場があり、荷負本村の男性が番兵していた。男性は、平取町の役場から頼まれ、町有牧野の馬の番兵をしていた。〈CT20040203-002〉

●叔父が、宿主別で馬番兵をしていた。馬番兵は各部落から平取町の牧場に預けた馬の番兵をしていた。主に鉄砲を持っている人が馬番兵をしていたが、アイヌの人が馬番兵に多いというのは、鉄砲を持っているから。〈CT20050819-001〉

●シチニ(ストウニの沢)に山子に入った17歳の頃(1940年頃)、芽生の小学校の所が牧野のチャツ口(補:チャツ=柵。チャツ口=柵の入口)だった。馬番兵をしていた荷負本村の男性は宿主別の橋の袂に居た。土台付きの小屋を役場が建ててくれた。〈CT20050818-003〉

●開拓が入る1945(昭和20)年以前の芽生は、今のセンター(生活改善センター)のところに木戸が張られ、それより奥は(町の)牧野で、馬を放していた。現在、わたしの家のある付近も(補:額平川の左岸一帯)牧場で、開拓が入って初めて開放された。〈CT20050623-001〉

●山仕事に行ってた総主別の方へ芽生の男性が何十頭も馬を放していた。その放牧してる場所で仕事をしていた。男性は町営牧野にも放牧していた。当時は、指定された牧場はなく、みんな放牧地をただ使っていた。町牧が始まったのは36(補:昭和)(1961年)年前後だったと思う。〈CT20040210-002〉

●宿主別は1966年～1967年頃はスズラン畑ではなく牧場になっていた。現在は牧場になっていてきれいになっているが、昔は木原の中に家があった。〈CT20030704-001 CT20040205-001〉



牧野イメージ図【沙流郡びらとり町/語りつぐ平取P60・P241】より

(※聞取対象者名を削除 07-07-22)